平成29年11月1日

平成２９年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。
こうした考えから，平成２９年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。
また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

平成29年4月18日(火)

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）
中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年	国語　７０人	算数　７０人	理科　７０人
第５学年	国語　７０人	算数　７０人	理科　７０人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

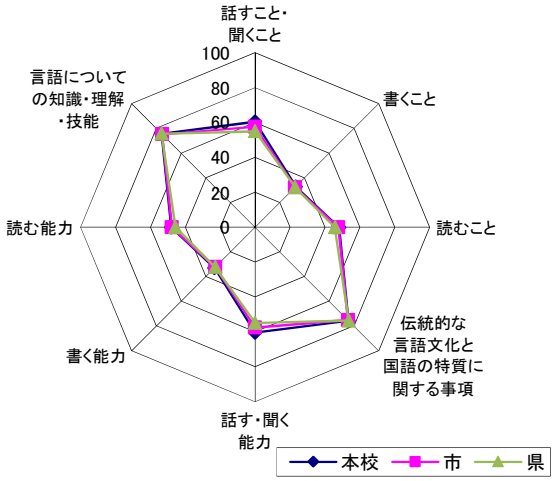
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	60.4	57.5	54.9
	書くこと	32.9	32.3	32.3
	読むこと	48.1	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.7	75.3	75.8
観点	話す･聞く能力	60.4	57.5	54.9
	書く能力	32.9	32.3	32.3
	読む能力	48.1	47.7	45.7
	言語についての知識･理解･技能	75.7	75.3	75.8



★指導の工夫と改善

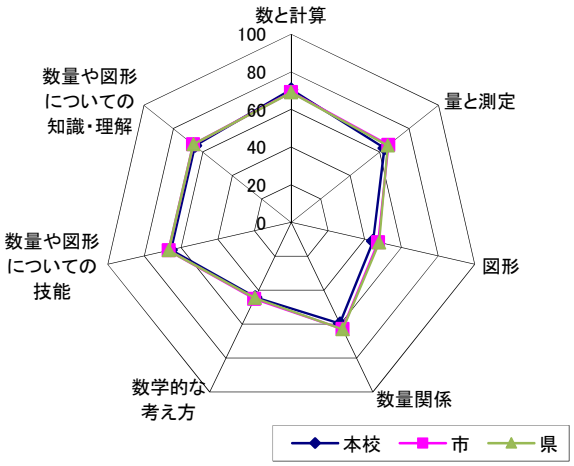
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話すこと･聞くことについての正答率は60.4%で，県の平均を6ポイントほど上回っていた。 ○「話の中心に気を付けて聞き，自分の意見を述べる」問題では，県の平均を8.3ポイントも上回っていた。しかし正答率は31.9%と低い。	･学習の前に目当てを確認し，話の中心を意識して話をしたり聞いたりできるようにさせたい。 ･現在行っている一分間スピーチでは何を伝えたいのかを考えさせて話すようにさせたい。
書くこと	○書くことの正答率は32.9%で，わずかながら県と市の平均を上回っている。 ●書くことの正答率に関して学力階層に分けたとき，A層は69.7%と高かったが，B層24.6%，C層15.4%，D層は4.4%と，非常に低い。	･100字作文を取り入れ，とにかくたくさん書かせ書くことに慣れさせる。 ･良い文章を視写させたり，良い表現を紹介したりして書く内容の充実も図りたい。
読むこと	○読むことについての平均正答率は48.1%で県の平均を2.4ポイント上回っている。 ○「叙述や会話文を基に，登場人物の性格を捉える」問題では県の平均を8.2ポイント上回っている。 ●「文章を読んで考え，まとめたことを発表しあう」問題では，学力階層に分けたときA層とD層の差が54.9ポイントと大きな差がある。	･ペア学習やグループ学習を多く取り入れ，話し合いの場を増やすとともに，話し合いを振り返る場も設ける。 ･宿題などでも多くの文章に触れさせ，話の内容を大きくとらえたりキーワードを探したりしながらより正確に内容が捉えられるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項についての平均正答率は75.7%と県･市とほぼ同じぐらいである。 ●ローマ字に関する問題の正答率が52.2%で，県の平均より7.1ポイント低い。 ●主語･述語に関する問題では正答率は66.7%で県の平均を8.2ポイント，市の平均を6.5ポイント下回っている。	･いろいろな熟語を読んだり書いたりさせ，既習の漢字の定着を図る。 ･学習活動全般で国語辞典の活用を図り，国語辞典の活用力を上げたり，語彙を増やしたりする。 ･宿題でテーマを決めてローマ字で書かせたり，ローマ字しりとりに取り組ませたりして，ローマ字の習得を図る。

宇都宮市立雀宮南小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.6	69.2	69.1
	量と測定	63.4	66.1	65.6
	図形	44.6	47.4	48.0
	数量関係	59.7	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	44.1	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	65.6	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	65.4	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

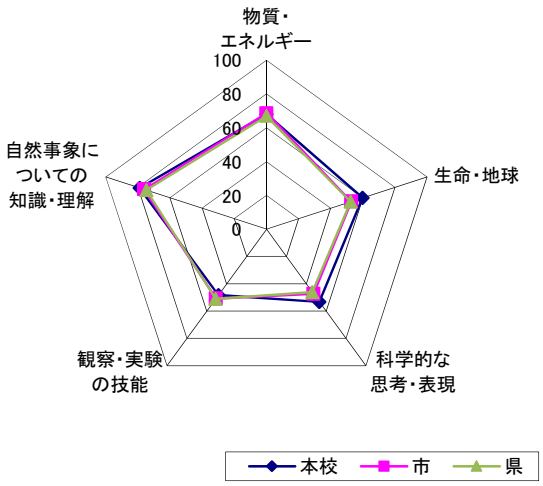
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数と計算の平均正答率は70.6%と県の平均よりやや高い。 ●3位数×2位数＝5位数の計算の正答率が46.4%と県・市の平均を9ポイント以上下回っている。	・基本的なことは概ねできているといえるが，3位数×2位数となると計算の回数も多く間違えやすい。そのため，何度も繰り返しミスが少なくなるよう，基礎的な力をつけていきたい。
量と測定	●量と測定の平均正答率は63.4%で県・市の平均を2ポイントほど下回っている。 ○はかりに示された重さを読み取る問題では正答率が87.0%とよくできていた。 ●分と秒であらわされた時間を秒に換算する問題の正答率が68.1%で県・市の平均を10ポイント以上下回っている。	・時間の換算が難しいところではあるが，そもそも時計が苦手な児童が まだいるため，基本的なところからもう一度確認し，学習を定着させていきたい。 ・時間の換算は今後速さの学習になったときにも重要になってくるので，普段の生活の中にも時間の学習を取り入れながらあらゆる場面で学ばせていきたい。
図形	●図形の平均正答率は44.6%で県・市の平均を約3ポイント下回っている。 ○円を利用してかいた三角形の名前とその理由を答える問題では，正答率は10.1%と低いものの県の平均は5.7ポイント上回っている。 ●箱に入った同じ大きさの6個ボールから半径をもとめる問題の正答率は46.4%で県・市の平均を10ポイント以上下回っている	・図形の名前を答える問題は漢字のミスはあるものの概ねできているといってよいだろう。一方で図形を活用する問題では極端にできていないので，形の感覚を養ったり，応用問題に触れさせたりすることで，様々な問題に対応できるようにしていきたい。
数量関係	●数量関係の平均正答率は59.7%で県・市の平均を3ポイントほど下回っている。 ●等分除の問題について除法の式を立式して答えを求める問題は正答率が50.7%で市の平均を10ポイントほど下回っていた。 ●表や棒グラフからわかる正しい内容を選ぶ問題では，正答率が県・市の平均を10ポイントほど下回っていた。	・等分除と包含除の違いについてもう一度復習し，正しく立式できるようにしたい。また，他教科の学習や日常生活の中に表や棒グラフなどを取り入れて知識理解を深めたり，生活の中での活用力を高めたりしたい。

宇都宮市立雀宮南小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.0	68.6	66.9
	生命・地球	59.8	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	53.3	47.4	46.2
	観察・実験の技能	48.4	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	78.9	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○物質・エネルギーの正答率は68.0%で，県の平均は上回っているが市の平均をわずかに下回っている。その中で，光の性質については県の平均も市の平均も7ポイント以上上回っている。特に，「反射させた光を重ねたときの明るさの違い」を問う問題では，県の平均を18ポイントも上回っている。 ●「回路を作る際の導線の安全なつなぎ方」を問う問題では，県や市の平均を10ポイント以上下回っていた。「実験結果から必要なゴムの伸びを推測する」問題では，市の平均を10ポイントほど下回っている。	・「反射させた光を重ねたときの明るさの違い」の問題については，昨年度，実験による体験的な活動で理解を深めた成果ではないかと考えられる。 ・「回路を作る際の導線の安全なつなぎ方」については，4年の「電気のはたらき」の単元でもう一度丁寧に確認をし，実際につないで体験することで復習をし，定着させたい。
生命・地球	○生命・地球の正答率は66.7%で，県も市も13ポイント上回っている。中でも「木の影ができなかった理由を説明する」問題では，県も市も20ポイント以上上回っていた。 ●「虫眼鏡の適切な使い方」を答える問題の正答率は33.3%で，市の平均を14ポイントも下回っている。	・「木の影ができなかった理由を説明する」問題に関しては，昨年度，丁寧に観察とまとめ，考察，確認を行ったことが活用できていると考えられる。今年度も，そのように観察から考察までを丁寧に行い，学習を定着させていきたい。 ・「虫眼鏡の適切な使い方」は基本問題にもかかわらず7割近い児童が誤答しているため，今年度，植物の観察を行う際には，全体で確認をし，実際に何度か使用し，使い方を定着させていきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校 第４学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○学びの基礎力の平均スコアは75.3%であり，県の平均を2.8ポイント，市の平均を1.6ポイント上回っている。その中でも特に，「先生は学習のことについて褒めてくれる」は97.1%で県の平均を15.4ポイント，「学校の宿題は，やりたくなる内容だ」は75.4%で県の平均を9.0ポイント，「授業でわからないことがあると，先生に聞くことができる」は84.1%で県の平均を10.7%上回っている。このことから，児童の学習意欲が高いこと，また，教師と児童の関係性がよくできているということがうかがえる。今後も引き続き，児童との関係性や，児童一人ひとりを認めていくことを大切にし，個に応じた指導を続けていきたい。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」は87.0%で県の平均を9.5ポイント，「学級活動の時間に，友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めていると思う」は91.3%で県の平均を12.0ポイント上回っていて，「自分の発言や行動に自信を持っている」は75.4%と県の平均を10.9ポイント上回っている。このことから，学級の雰囲気が良いこと，話しやすく自分の意見を言いやすい環境がわかる。これを生かし，話す力・聞く力を伸ばしたり，ペア・グループ活動による問題解決能力を高めていきたい。

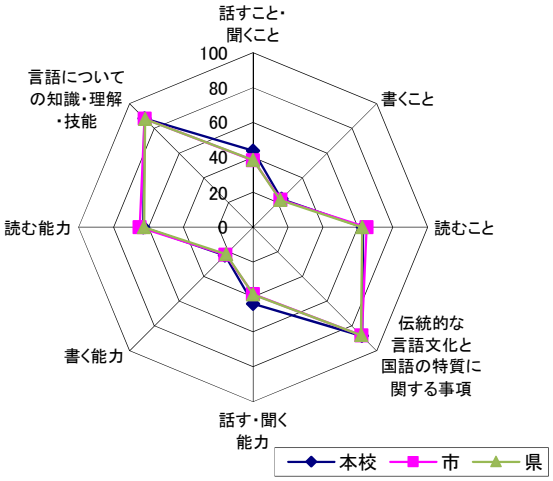
●「家で学校の授業の予習をしている」は46.4%，「家で学校の授業の復習をしている」は49.3%と，いずれも県の平均を10ポイント以上下回っていて，「家で，テストで間違えた問題について勉強している」も県の平均を10ポイント近く下回っている。宿題以外の家庭学習について見直す必要があると考えられる。

●「授業でわからないことがあると，先生に聞くことができる」と「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の質問では，学力階層に分けたときA層とD層とで肯定的回答の差が大きく，学習が苦手な傾向にある児童ほど，肯定的回答が少ないということが分かった。学習が苦手な児童傾向にある児童ほど先生に聞くことができない状況でもあるので，より一層，気を配り，支援していくことが必要である。また，そういった児童ほど，話し合いに参加できていないので，声掛けや支援をしていくことで，学習に参加できるようにしていきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	43.8	38.3	38.5
	書くこと	22.9	22.3	21.9
	読むこと	62.9	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	88.1	87.8	87.5
観点	話す･聞く能力	43.8	38.3	38.5
	書く能力	22.9	22.3	21.9
	読む能力	62.9	65.0	62.5
	言語についての知識･理解･技能	88.1	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

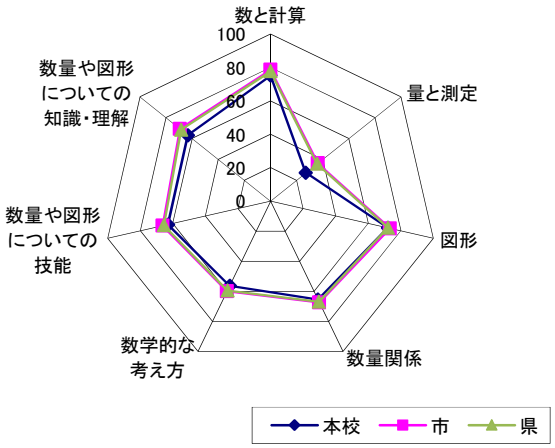
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話すこと･聞くことの観点の平均正答率は43.8%で，市や県の平均を5ポイント余り上回っていた。 ○考えの共通点や相違点を整理しながら聞く設問では，正答率が64.3%で，県の平均を4.9ポイント上回っていた。 ●考え方の根拠を示しながら筋道を立てて話す設問では，県の平均を13.2ポイント上回っているものの，28.6%の正答率で，話合いの流れに合うように言葉を考えて回答するという記述する内容に合致する答えを74.1%の児童が導き出せていなかった。	･日常から話合い活動を授業の流れの中に位置づけて展開を図るようにしているので，それが成果となって表れてきている。今後も，このような学習の展開を図り，学力の定着化につなげていきたい。 ･内容を選択する問題では回答率が高かったが，記述式の問題では回答率が低い傾向にあったので，同じような内容を言い換えをさせるなどし，表現力の向上に努めていきたい。
書くこと	○書くことの観点の平均正答率は22.9%で，県の平均を1.0ポイント，市の平均を0.6ポイント上回っていた。 ○文章校正を意識し，内容を工夫してリーフレットを作る設問では，平均正答率が47.1%で，県の平均を1.3ポイント上回った。 ●メモの内容に新しい情報を加え，リーフレットに入れる設問では，正答率が1.4%と低かった。	･これまでにも総合的な学習との教科横断的な学習で資料を活用して書くことに取り組んできており，内容を工夫して書くことは定着している児童が多いので，今後は，一定の条件を付加させて書くという取り組みを心掛けていきたい。 ･習得した知識や技能を活用するような授業を他教科･領域に広げて学習を行うような単元構成の工夫を行い，取り組むようにしていきたい。
読むこと	○読むことの観点の平均正答率は62.9%で，県の平均を0.4ポイント上回ったものの，市の平均を2.1ポイント下回った。 ○中心となる語や文に着目して小見出しを付ける設問や叙述をもとに，登場人物の気持ちを想像して読む設問での正答率は，ともに91.4%と極めて高かった。	･読むことを学習する単元では，キーワードを見つけたり，大切な部分に傍線を引かせたりし，文章に即して正確に読み取る活動を続けている。その成果が表れたと考えられるので，今後も継続して取り組んでいく。 ･選択式の設問の正答率に比べ，短答式の正答率が市や県の平均正答率を下回る傾向が見られるので，キーワードで端的に表現させるばかりでなく，読み取ったことを文章で表現する経験を積ませるようにしていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○言語についての知識･理解･技能の観点の平均正答率は88.1%で，市や県の平均をやや上回った。 ○漢字の読み，書きともに6問中4問が，90%以上の正答率であり，良好であった。	･漢字練習の仕方を工夫して継続的に取り組ませてきたことが，成果となって表れてきた。また，音読指導を重点的に行っていることも良好な結果につながっている。今後も，家庭との連携を図り，児童一人一人が課題意識をもって家庭での学習に取り組ませ，着実に練習を積み重ねていくことで基礎･基本の定着につなげていきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.2	78.6	77.7
	量と測定	27.1	36.3	35.7
	図形	72.1	73.3	72.1
	数量関係	65.4	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	56.3	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	63.0	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	63.3	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

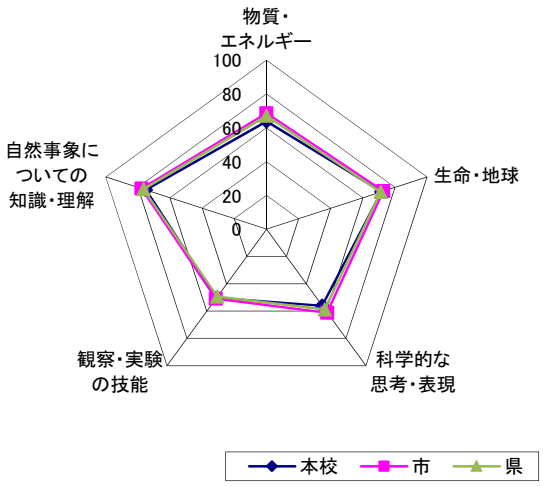
,○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○3位数×2位数の計算は正答率が71．4%と市の平均を4．4ポイント上回った。 ●小数－小数の計算は，正答率が71．4%と市の平均を10ポイント下回り，少数のかけ算では，正答率が67．1%と市の平均を9．3ポイント下回った。また，「帯分数を数直線に表す」問題では，正答率が80%と市の平均を9．2ポイント下回った。	・小数同士の引き算については，小数点の位置を揃えるところが身についていないので，復習し，確認させていきたい。 ・小数のかけ算については，その後に学習する小数×小数の計算や，小数のわり算の基本となる計算であるので，つまずきがみられる児童には，小数×整数の計算に戻って確認させていきたい。
量と測定	●面積に関する設問に対して市の平均を7～13ポイント下回った。また，図を基に180°より大きい角度の求め方を説明する設問に対しても正答率が17・1%と低く，市の平均を7．9ポイント下回った。	・正方形の面積の単位の換算については，1㎡＝100㎠と勘違いして解答した児童が多く見られたため，辺の長さを換算してから立式させるようにする。つまずきが見られる児童には，「1㎝の正方形の何個分か」という考え方を振り返らせ，公式へとつなげていく。 ・180°より大きい角度の求め方については，360°から引く場合と180°に加える場合について実際に分度器を使って説明できるようにさせたい。
図形	○与えられた2辺の続きをかいて，平行四辺形を完成する設問に対しては，正答率が62．9%と市の平均を3．1ポイント上回った。 ●立法体の展開図から，ある面と平行な面を選ぶ設問に対しては，81．4%と市の平均を5．4ポイント下回った。	・図形の学習で作図についてはおおむね操作ができているので，つまずきが見られる児童には作図の技能を向上させるような問題を用意し，定着させていくようにする。 ・展開図から平行な面をみつけることは正答率が80%を超えてはいるが，より定着するように，実際に作業をしながら確認させていきたい。
数量関係	○一人の考え方を選び，一つの式に表し，おつりを求める設問に対しては，正答率が55．7%と市の平均を5．7ポイント上回った。 ●折れ線グラフでは，グラフの下がり方を見る設問が市の平均を5．4ポイント，正しくない説明を選ぶ設問が10．6ポイント下回った。	・変わり方の数字を求めることはおおむね理解できているが，○や△を使った関係を式に表すことがまだ身についていないので，簡単な数字を当てはめて計算したり，記号を使った式を意識しながら立式できるように取り組んでいきたい。 ・社会の資料などで折れ線グラフの読み取りを意識的に取り入れることで，折れ線グラフに親しませ，より身近に感じられるようにしたい。

宇都宮市立雀宮南小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.8	68.6	67.0
	生命・地球	71.6	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	56.1	61.2	58.8
	観察・実験の技能	50.5	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	75.1	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○「金属の温まり方」を問う設問では県の平均を6.6ポイント上回った。また，「光電池のはたらきと光の強さ」を問う設問では，県の平均を4.7ポイント上回った。 ●平均正答率は，県・市平均ともに下回ってしまった。特に，閉じ込めた空気・水を圧するときに関する設問について，県・市ともに10ポイント以上正答率が低かった。	・「閉じ込めた空気・水」については，注射器やポンプなどを使った実験のような体験的な活動を充実させるとともに，生活の中で閉じ込められた空気や水を用いたものにどんなものがあるか，実物を使って説明することで，生活の中でも実感できるようにする。 ・いずれの内容についても，実験や観察をする際に，なぜその実験をするのかを意識づけるために，予想と結果を関連付けて見通しを持たせてから実験・観察を行うようにする。
生命・地球	○領域の平均正答率は71.6%で，県の平均とほぼ同じだった。「月の動き」を問う設問では，県の平均を11.5ポイント上回った。 ●「季節と生き物の姿」の関係を問う設問では，市の平均を10.8ポイント下回った。また，「蒸発」に関する設問でも県の平均正答率を15.5ポイント下回った。	・「季節と生き物の姿」については，季節ごとに見られる生物を身近に感じるために，日頃から季節や生物の話をしたり校庭を見て回ったりする活動を取り入れるようにする。 ・「蒸発」については，水たまりが出来ているときやお湯を沸かすとき，ペットボトルを凍らせたときなど，生活に関連させた内容を取り上げることで，生活の中にも状態変化は深くかかわっているということを意識付ける。

宇都宮市立雀宮南小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○学びの基礎力の平均スコアは76.3%であり，県の平均を2.6ポイント，市の平均を0.5ポイント上回った。特に，「勉強していて面白い，楽しいことがある」が91.4%，「勉強していて，不思議だな，なぜだろうと感じることがある」が91.4%と高く，感じ取る力が優れていた。また，「先生は学習のことについてほめてくれる」が92.9%と県の平均を9.0ポイント，市の平均を5.9ポイント上回っており，自己有能感につながってきている。これらのことから学習意欲は高まってきているので，継続した取り組みを行っていく。
○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の平均スコアが40.0%で，県の平均を9.1ポイント，市の平均を10.0ポイント下回っていた。しかし，クラスは発言しやすい雰囲気である」は，85.7%と高く，県や市の平均を4～5ポイント上回っていた。また，「授業では，クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」でも90.0%で，県や市の平均を5ポイント以上上回っていた。これらのことから，対話力は問題ない水準にあるので，学級全体の前で話す機会を増やし，自信を付けさせていくような指導を心掛けていきたい。
●学習のめあてやねらいを書くノート指導や，振り返り活動など学習の規律に関する項目でのスコアが，市や県の平均を5ポイントほど下回っており，改善が必要である。本年度から各教室の黒板にめあてや振り返りを意識化できるようなマグネットシートを準備したので，活用し，授業を展開するようにしていきたい。
●家庭学習力の平均スコアが60.2%であり，県や市の平均を5ポイント余り下回っていた。「家で，学校の宿題をしている」では，98.6%の児童が肯定的な回答をしており，家庭学習を行っているものの，県の平均に比べ予習では8.8ポイント，復習では15.5ポイント下回っていた。また，「宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答は50.0%で県の平均を11.6ポイント下回っている。テスト直しを学校で行ってしまっているために，肯定的回答が下回っていた。これらのことから，家庭学習の在り方を学校主体で取り組んできたが，もっと家庭や児童に戻すなどし，学校は児童が主体的に取り組んでいけるように支援する立場であることを明確に示し，家庭学習の質を変えていく必要性がある。そこで，今回の資料を基に学年だよりや懇談会等で家庭学習への取り組み方法を具体的に示すようにしていきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
音読指導の充実	すべての学年で発達段階に応じた音読カードを作成し，毎日練習するようにしている。	国語の「読むこと」の項目は4年生で2.4ポイント，5年生で0.4ポイント県の平均を上回っている。
言語活動の充実	ペアやグループによる話し合い活動を授業に位置づけて展開を図るようにしている。また，教科や領域の単元の特質を生かした言語活動を取り入れて実践化を図っている。	国語の「話すこと・聞くこと」の項目では，4年生で5.5ポイント，5年生で5.3ポイント県の平均を上回っている。
活動のめあての明確化と振り返りの位置づけ	「何ができるようになるか」を明確にして授業の構想を立て，児童が見通しをもって学習に取り組めるように実践化を図るとともに，学びを実感できるような振り返りを行っている。	「授業では，授業の目標（めあて・ねらい）が示されている」の肯定的回答率は４年生が84.1%で県の平均を1.7ポイント下回ったものの，５年生が97.1%で県の平均を5.7ポイント上回っていた。 「授業の最後に，学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定的回答率は4年生が76.8%で県の平均を7.3ポイント上回っていたが，5年生では68.6%で6.0ポイント県の平均を下回っていた。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数の「図形」「時間」「グラフ」についての問題で，4年生，5年生ともに正答率が低い傾向にあった。	既習事項の習得を確認し，状況に応じて復習した上で，新しい学習に取り組ませるようにする。	つまずきの状況に応じて学年を遡って復習できるように資料やプリント等を準備して取り組ませるとともに，既習事項を扱った課題を効果的に与え，折に触れて復習できるようにする。